

第二十五回隠岐後鳥羽院大賞 短歌部門 入賞作品

大賞

医薬品待つ島びとに届けむと五島の空をドローンが飛ぶ
滋賀県 船岡 房公

三枝昂之選特選

ぜんまいが切れたみたいに子が眠り夜泣きのへやの孤島解かれる
茨城県 坂上 くも

安田純生選特選

行きたいと言っていたのに島めぐりツアーに母は眠ってばかり
山口県 石井久美子

海士町長賞

ぜんまいが切れたみたいに子が眠り夜泣きのへやの孤島解かれる
茨城県 坂上 くも

西ノ島町長賞

行きたいと言っていたのに島めぐりツアーに母は眠ってばかり
山口県 石井久美子

知夫村長賞

車椅子を押すベトナムの研修生母に祖国の家族を語る
神奈川県 鈴木 経彦

角川「短歌」編集部賞

法華経を唱へし母の座布団に我が座りて母に経読む
神奈川県 鈴木 経彦

島うた歳時記賞

海の無き町に生まれし幼な児が四方の海見て深呼吸する
島根県隠岐郡隠岐の島町 谷村美都子

松籟賞

ひと月の勤務を終へて島を去る代替教師に春の雪降る
北海道 藤林 正則

三枝昂之選 準特選 ※選考後に類歌であることが判明したため削除いたしました

三枝昂之選 入選

風おきて居眠り猫の耳うごく日向に本読むわがひぎの上

兵庫県 小藪 政明

車椅子を押すベトナムの研修生母に祖国の家族を語る

神奈川県 鈴木 経彦

切符切る駅員さんはもうみないスマホかざして改札ぬける

三重県 有田 典子

干柿が日に日に色をかえていくあの家この家そろそろ食べ頃

新潟県 関根恵津子

玉太る相島西瓜を目に音に確かめ夫婦は出荷勤しむ

山口県 永井すず恵

八月二十日露軍が真岡を艦砲射撃吾ら逃にき熊笹分けて

神奈川県 林 静峰

教室の半分以上反抗期みんなの背中見てたらわかる

埼玉県 石田 泰生

島歌を唄えば磯の香りくる嗚呼ふるさとのあの海の香が

東京都 高橋 正人

島に生き島より知らぬと老いびとの海にたゆたふ眼差し和か

栃木県 久保 澄子

しゃもじ持ち一人で踊るキッチンが島の祭りの会場となる

兵庫県 木内美由紀

晩秋の里山あまねく日当たりて旧家の庭の柿たわわなる

茨城県 飯田 初江

牛突きの牛のまなこの血走りぬ引かれて勝負終わりしあとも

東京都 嶋田 恵一

たんぽぽの綿毛のように飛び立てり卒園式の午後の静けさ

滋賀県 深掘 英子

医薬品待つ島びとに届けむと五島の空をドローンが飛ぶ

滋賀県 船岡 房公

知るほどに愛せぬ理由が増えてゆくそんな亡父に我は似ている

神奈川県 河野 真理

夫眠る墓地より見下ろす玄界灘ミニチュアのごときサーファーが見ゆ

福岡県 瀬戸口真澄

透明な秋陽といふ名の画布一面にほすすきの白が風に揺れをり

岡山県 菊池 眞理

たらちねの母の手鏡懐かしきそのひらかなのかすれし御名

福岡県 喜屋武 進

ひと月の勤務を終へて島を去る代替教師に春の雪降る

北海道 藤林 正則

島々が「行っておいで」と背中押す旅立ちの日の鶉色の海

徳島県 峯 菜実子

三枝昂之選佳作

誰ももう還らぬ家や藤の花あの柱傷確かめもせず

北海道 かまだまこと

海鳥の舞ひも嬉しく夕虹をくぐりて大漁船もどる

神奈川県 北村 純一

法華経を唱へし母の座布団に我が座りて母に経読む

神奈川県 鈴木 経彦

海風に耳びくびくと放牧の馬健やかに太りゆく秋

愛知県 稲葉遊遊子

山陰の何度も止まる待機線駅のポスター「ごめん」と笑う

愛知県 近藤 圭介

田植えして軽トラ荷台で昼ごはん親せき一同共同作業

岐阜県 香田 明彦

姉逝きて「限りあれば」の言の葉を初めて自身に問い続けた夜

栃木県 小杜 芳野

どっかりと腰掛けて剥く里の栗七七調の虫の音聞きつつ

東京都 北島 孝子

友の住む島影しるき秋の海おーいと呼べば聞こえる如し

島根県隠岐郡隠岐の島町 谷村美都子

隠岐の島目指して進む航跡の徐々に広がる水脈の輝き

静岡県 鈴木 昭紀

隠岐見えて島根の島の消ゆるなり三日なれどもわれも島守

京都府 水野 孝典

夕まぐれ病窓に見ゆる向島ほつりほつりと明かりが灯る

山口県 藤本 征子

なつかしい声に呼ばれたような気がしてふり向きぬ金木犀（もくせい）の径

大阪府 小野まなび

時化の日も凧の日もあり 上皇の心の襷のようなさざ波

大阪府 黒木 淳子

心配をかけましたとふ退院の妻に何のと応え労わる

茨城県 木村 誠一

蜘蛛の巣に枯葉いちまい掛りをり朝日の中に時折ゆらく

島根県 長谷川義剛

家計簿の収支が合ったと妻が言う職退きしのち財布預けて

愛媛県 眞部 孝司

火を喰らう日々の記憶をひんやりと隠して眠る主の亡き窯

北海道 中屋敷 歩

故郷(ふるさと)は泣いて笑ったここなのだ。おかえりなさい海(うみ)見える家(うち)

山口県 知 音

橋が架かる前はもっと島らしい島で渡しがそこから出て

東京都 遠藤 玲奈

安田 純生 選 準特選

海の無き町に生まれし幼な児が四方の海見て深呼吸する 島根県隠岐郡隠岐の島町 谷村美都子

安田純生 選 入 選

法華経を唱へし母の座布団に我が座りて母に経読む 神奈川県 鈴木 経彦

車椅子を押すベトナムの研修生母に祖国の家族を語る 神奈川県 鈴木 経彦

稲妻は沖へと去るもその遙か沖では息子が太刀魚を獲る 埼玉県 若山 巖

田植えして軽トラ荷台で昼ごはん親せき一同共同作業 岐阜県 香田 明彦

何処へでも行ける身となりぶらぶらと川辺辿れば蝶がつきくる 宮城県 角田 正雄

大き梨剥けば真白き果肉いづ雫したりこれぞ贅沢 山口県 濱田 道子

九十歳過ぎて互いに最後だと父と叔父とは目で会話する 栃木県 小杜 芳野

今までに聞きしことなき雨の音エリアメールのけたたましく鳴る 京都府 近江 瑞子

引き籠りにならぬやうにと外に出づ 時には少し遠くのポストへ 石川県 橋本 枝折

医薬品待つ島びとに届けむと五島の空をドローンが飛ぶ 滋賀県 船岡 房公

岬鼻に見晴らしてある日本海夕焼け空の広広とせる 千葉県 大久保文夫

父さんが出来るからってこの僕が出来るとは限らない日曜大工

山口県 石井久美子

絵馬あまた北風受けて打ち合えば運も利益も壊れそうなり

大分県 松崎 重喜

霜月を十日残せるこの朝に夫の余命をふい知らさる

山口県 為近 艶子

紫陽花の向ふに黒き牛どもが雨に濡れつつ青草を食ふ

兵庫県 小竹 哲

ゆっくりと小さき漁船は帰還せり波静かなる海士の港へ

愛知県 海神 瑠珂

空高き朝をゆったり流れゆくひとひらの雲が運びゆくもの

埼玉県 白藤 巳玲

橋が架かる前はもつと島らしい島で渡しがそこから出てて

東京都 遠藤 玲奈

こんなにも月が満ちててもう二度とバスは来ないのだろうと思う

沖縄県 金城 理子

安田純生 選佳 作

踊り子の一人となりて阿波の夜ふえかねたいこ三味線ひびく

大阪府 井坂 澄子

ここでこそ都に敗けぬ情緒有り悲も苦も悔いも癒やす隠岐島

大阪府 後藤 憲之

看護師で孤島に憧がれ牛深へ空と海とがつながる所

熊本県 岩城恵美子

さよならとバスの窓より手をふりて隠岐に出会ひし友との別れ

長崎県 佃 美智子

かみなりの近づきくれば耳を閉じ目を細く開け稲妻を追う

愛知県 榊原 昌子

父母は再婚同志 わたくしはしずかな秋の朝に生まれた

山口県 倉谷 節子

どっかりと腰掛けて剥く里の栗七七調の虫の音聞きつつ

東京都 北島 孝子

箱めがね覗けば色もとりにどりに藻ぐさのゆらぎ踊り子のごと

島根県 花田 敦子

切符切る駅員さんはもうゐないスマホかざして改札ぬける

三重県 有田 典子

高速に隠岐へと向かう船は揺れ中継画面の力士ら転ぶ

京都府 後藤 正樹

八月二十日露軍が眞岡を艦砲射撃吾ら逃にき熊笹分けて

神奈川県 林 静峰

彼の世へと無事に夫をお帰しす一番星の光る夕空

熊本県 石橋 和枝

島歌を唄えば磯の香りくる嗚呼ふるさとのあの海の香が

東京都 高橋 正人

巫女たりし吾の緋袴が仕舞はるる母の箆笥の一番底に

山口県

澤井 潤子

狭い庭に種より育てし白菜は虫食いなれど料理して食む

岐阜県

井上 清一

牛突きの牛のまなこの血走りぬ引かれて勝負終わりしあとも

東京都

嶋田 恵一

ひらひらと桜花びら旅をして隠岐の浜への貝となりけむ

新潟県

若月 昭宏

ひと月の勤務を終へて島を去る代替教師に春の雪降る

北海道

藤林 正則

震災の日は大阪の家において目覚めるときに朝日が揺れた

三重県

山岡すべり

わたしより島の友達多いよな見送られ発つ島体験生

島根県

有 泉

青少年の部

第二十五回隠岐後鳥羽院大賞 短歌部門 青少年の部 入賞作品

永田 淳選 最優秀作品

車窓から夜景を見ている帰り道自分も誰かの夜景になる 神戸市立神港橘高等学校 小坂 優輔

永田 淳選 優秀作品

申の刻静まり返った教室に一人で笑う落書きの君 静岡県立小山高等学校 勝亦 芽生